

## 接頭辞 *про-*の放射状カテゴリーの検討 - 語彙力の効率的な増加を念頭において -

### 0. 本発表の概要

多くのロシア語学習者は語彙力不足の問題を抱えている。そのため、効率的な語彙力増加の方法が求められるが、これまでの研究でその手段として動詞接頭辞の学習が効果的であると数量的に確認した。ただし、ロシア語の接頭辞は多義的であり、一つひとつの意味を単に覚えることは難しい。

そこで、接頭辞の意味学習の負担を減らすために、認知言語学で用いられる放射状カテゴリー (Radial Category / радиальная категория) という概念を導入することが有効であると考えた。本発表では、まだ整備されていない接頭辞 *про-*の放射状カテゴリーを検討した。

### 1. 接頭辞 *про-*の意味分類

まず Laura Janda らの一連の研究やアカデミー文法等の記述に基づいて、分析対象である *про-*の意味を以下の 10 個に設定した。

表 1. 接頭辞 *про-*の意味分類

	<i>про-</i> の付加がもたらす意味 (派生元の動詞に対して以下の意味をもたらす)	名称	
		英語	ロシア語
1	何かの中を通過・貫通する動作を表す <i>просверлить стену</i> 「壁に穴をあける」 <i>пройти сквозь толпу людей</i> 「人ごみの中を通り抜ける」	THROUGH	СКВОЗЬ
2	何かの側を通過する動作を表す <i>проехать мимо станции</i> 「駅の側を通り過ぎる」	PASS	МИМО
3	ある距離を移動する動作を表す <i>пробежать сто метров</i> 「100 メートルを走り過ぎる」	DISTANCE	ДИСТАНЦИЯ
4	何かを徹底的に、入念に行う動作を表す <i>проварить мясо</i> 「肉をしっかり煮る」	THOROUGH	ТЩАТЕЛЬ- НОСТЬ
5	何らかの対象の全体に及ぶ動作を表す <i>просмотреть книгу</i>	WHOLE	ТОТАЛЬНОСТЬ
6	何かを消費する・使い尽くす・失う動作を表す <i>пропить все деньги</i> 「飲んで金を使い果たす」	EXPEND	РАСХОДО- ВАНИЕ
7	何かを逃す・見逃す・逸する動作を表す <i>проспать экзамен</i> 「試験を寝過ごす」	MISS	ПРОПУСК
8	ある時間継続して何かに従事する動作を表す <i>просидеть два часа</i> 「2 時間座っている」	DURATION	ПРОДОЛЖИТЕ- ЛЬНОСТЬ
9	何かに害を与える動作を表す <i>простудить ребенка</i> 「子供に風邪をひかせる」	HARM	ПОВРЕЖДЕ- НИЕ
10	何か伸びる動作を表す <i>протянуть руку к сумке</i> 「バッグに手を伸ばす」	EXTEND	ПРОТЯГИВА- НИЕ

## 2. 分析

上記の 10 つの意味を設定する際, НКРЯ の高頻度 20,000 語内に含まれる *про-* のついた動詞接頭辞を対象に (約 180 個), これらの動詞の意味が上記 10 つの枠組みで分類が可能かを確認した(抽象的な意味に関しては, 動詞の意味が本研究の枠組みでうまく分類できないものも存在する).

具体的には, 先行研究を参考にし, 10 つの意味それぞれに統語的な制限 (どのような構文をとるか, どのような共起語をとるかを指す) と意味の構造 (一連の接頭辞付き動詞をまとめる接頭辞の具体的な意味を指す) を検討し, それに基づいて分類作業を行った.

### (1) THROUGH の意味構造と統語制限

#### a. 意味構造

пройти: Двигаясь или будучи двигаемым, влезть, проникнуть через что-н., сквозь что-н  
пробуравить: Просверлить отверстие в чем-нибудь, провертеть что-нибудь насквозь  
просверлить: Сделать в чем-нибудь отверстие посредством вращающегося инструмента, сверла.

➡ Направить какое-нибудь движение сквозь, через что-нибудь X, занимаясь действием V

#### b. 統語制限

(他動詞)

1. *про-V* +X\_acc [NP] Я просверлил стену.
2. *про-V* +X\_acc [NP] +Y\_ins Я пробил стену камнем.
3. *про-V* +X\_acc +Y [PP] Кислота прожгла дыру в столе.

(自動詞)

*про-V* +X [PP] (сквозь, через что-нибудь...)

(1)のような意味構造と統語制限を 10 個それぞれの意味に関して検討し, これを元に分析対象である *про-* の付いた動詞を分類していった.

## 3. 放射状カテゴリーの作成

THROUGH をプロトタイプとした, 上記 10 個の意味の拡張関係 (メタファー, イメージスキーマ変換) を検討した. その結果, 図 1 のような放射状カテゴリーが形成される.

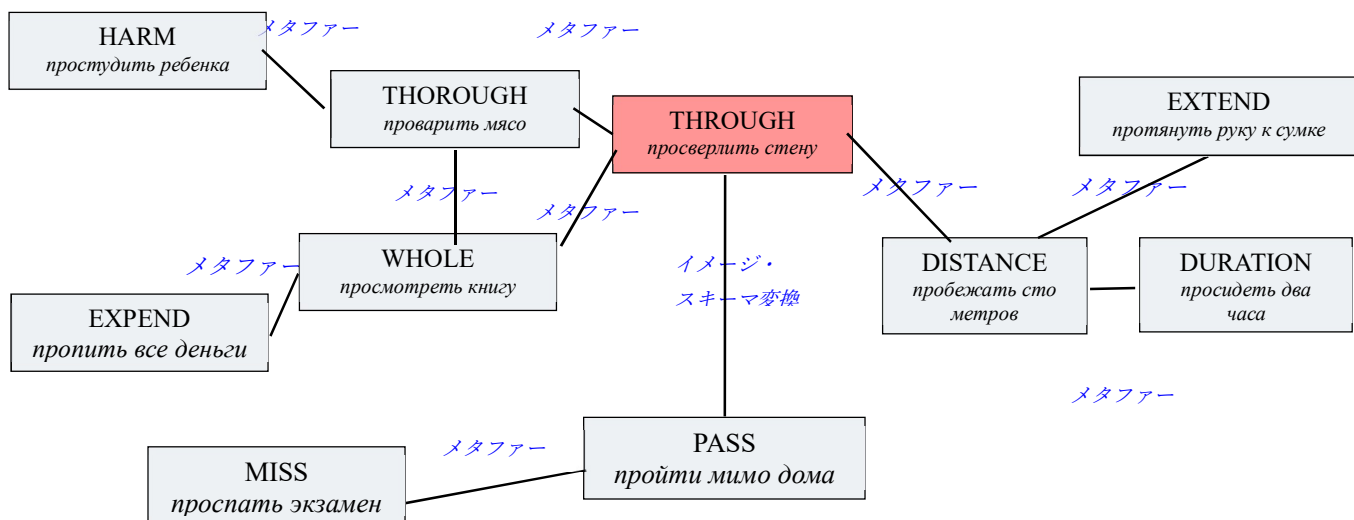


図 1. 接頭辞 *pro-* の放射状カテゴリー

#### 4. 今後の課題

##### a. 放射状カテゴリーの妥当性の確認

作成した放射状カテゴリーの意味拡張や意味の分類が妥当であるかを再確認する必要がある。現在の分析対象数では、統計的には価値が低いためである（1,000 から 2,000 の意味を対象に分析を行い、本研究の枠組みで分類が可能かを確かめる）。また、放射状カテゴリー内の意味の拡張（メタファーやメトニミー）に正当性があるかも確認する（概念メタファーによって説明するなど）。

##### b. 意味の構造と統語制限の精密化

現在の枠組みではカバー仕切れない動詞が存在する。a. の前提として、分析対象の拡大と共に、意味の構造と統語制限の記述の精密化を図る。